

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
福祉の道で先駆的役割を果たしてきた法人の介護の質の高さを確認することができた。ホーム開所7年目になるが、退居者数は少なく、入居者の心身機能の低下も少ない。2階の居室への行き来、清潔で整然とした居室作り、軟らかすぎない食事、リハビリ体操など入居者の持てる力を維持するだけでなく、引き出す取り組みがされている。さらに、病院や特別養護老人ホームなどの医療・福祉施設との連携が密であるため、心身の状態に応じた対応が迅速にできているだけでなく、入居者・職員の入れ替わりも少なく、安定した生き活きとした生活が営まれている。	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I 運営理念	「一人ひとりを大切にした質の高いケアサービス」という運営理念が随所に具現化され、入居者の安定した生活が支えられている。この理念を「運営理念」としてパンフレットにも明記し、利用者、家族のみならず、地域にも広めることを期待したい。
II 生活空間づくり	要改善点はなし。居心地良い居室があって、顔なじみの仲間との共有空間があってというグループホームのモデルをさらに追及してほしい。
III ケアサービス	ホームのケア体制は、歴史ある大規模複合施設がバックにあり、入居者の心身の状況に合わせて、医療や福祉の連携が迅速に取れていることである。食事(副食)も法人全体で一括調理され、栄養バランスもよく、おいしく作られている。この一括調理の利点を活かしながらも、入居者の楽しみやこれまで培ってきた生活力の回復という点で、ホーム独自で作る月1回の「自炊」の回数を増やすことを検討してほしい。
IV 運営体制	大規模施設内のホームという利点が大きく、散歩も施設内で十分満たされるという反面、地域との繋がりが乏しい。入居者が地域で暮らし続けるという視点で、ボランティアなどの地域の人的な社会資源を活用したり、ホーム独自の機能や実践などの力を積極的に地域に開放し、地域貢献されることを期待したい。

分野・領域	項目数	「できている」項目数	
		外部評価	
I 運営理念			
① 運営理念	4項目	3	
II 生活空間づくり			
② 家庭的な生活環境づくり	4項目	4	
③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6	
III ケアサービス			
④ ケアマネジメント	7項目	7	
⑤ 介護の基本の実行	8項目	7	
⑥ 日常生活行為の支援	10項目	10	
⑦ 生活支援	2項目	2	
⑧ 医療・健康支援	9項目	9	
⑨ 地域生活	1項目	0	
⑩ 家族との交流支援	1項目	1	
IV 運営体制			
⑪ 内部の運営体制	10項目	9	
⑫ 情報・相談・苦情	2項目	2	
⑬ ホームと家族との交流	3項目	3	
⑭ ホームと地域との交流	4項目	2	

2. 評価報告書

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1	○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			管理者は、グループホームに関わる法令の意義を明確に認識し、「一人ひとりを大切にした質の高いケアサービス」を職員と共有している。	
2	3	○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。		○		ホームの運営理念は玄関の見やすい位置に掲示されているが、案内パンフレットには掲載されていない。	「一人ひとりを大切にした質の高いサービスの提供」という理念は実現されているが、パンフレットにも「運営理念」として明記することが望ましい。
3	4	○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			入居者の権利・義務が利用案内や契約書に明示されており、同意も得ている。	
		2. 運営理念の啓発					
4	5	○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)	○			千葉県第1号のグループホームとして地域のパイオニア的役割を果たしており、広報誌やホームページを利用した啓発活動に取り組んでいる。	
運営理念 4項目中 計			3	1	0		
		II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			複合的な福祉施設の一角にあり、玄関周りにはプランターに季節の花も植えられ、ホーム独自の温かみを感じさせる配慮がされている。	
6	7	○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			共用の生活空間が清潔で、整頓も行き届き、家庭的で落ち着いたつらえになっており、安定した共同生活が送れる配慮がなされている。	

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			1階のスペースは広く、ダイニングテーブルやソファ、テレビの配置も良い。2階の団欒場所や居室の利用も含め、共用空間でも多様な居場所が確保されている。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			仏壇や趣味の道具を持ち込んでいる方、ホームでの生活史を彩る写真や家族との思い出の品々で壁面を埋めている方など、一人ひとりに合わせた居室作りができ、安住の場となっている。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			洗面台や流し、便座は使いやすい高さである。浴槽の深さ、広さも使いやすく改善されている。2階に居室が6部屋あることで、階段の昇降が日常的なリハビリとなっている。その他、必要な箇所には、滑り止めや手すりが設置されて機能低下に対応した配慮もなされている。	スリッパを履いている入居者は、階段の昇降に不安はないのかと気になった。
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をごわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			一概に名札をつけるのではなく、入居者の場所間違いの有無について職員がよく把握しており、部屋の目印などは必要最低限にしている。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			職員の会話のトーンやテレビ、BGMの音量など適切に配慮している。リビングの天井が吹き抜けになっており、各居室の採光を配慮した作りとなっている。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のおよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			各居室にエアコンと加湿器が設置されているが、夜間も含めて換気や室温調整は適切に実施している。	リビングに温度計はあったが、湿度計も活用するとなおよいと思う。
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			時計やカレンダーなど見やすい位置に設置されている。春には全居室から手の届きそうな近さで花見ができるなど、季節感を感じられる環境になっている。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			配膳や後片付け、居室の掃除など、入居者の経験や状況に応じて活動できるように用具を用意し、使われている。	
心身の状態にあわせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			詳しいケアチェック項目が盛り込まれているチェック表のデータや、本人、家族の意向を反映した具体的な介護計画が作成されている。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			日々の様子や気づきをミーティングやケア記録を通して介護計画に反映し、その内容を全ての職員が共有している。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			家族の訪問時に入居者の状況や暮らしぶりを伝え、本人や家族の生活に対する意向も聞き、介護計画に反映させている。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			介護計画は、定期的な見直しのほかに、入居者の状態に応じた見直しがされている。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			一人ひとりのケア目標からケア項目を導き出し、それぞれの項目ごとにチェックがなされている。その他、日中や夜間の様子、食事量、入浴の有無など、日々の状態がわかりやすく具体的に記録されている。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にし、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			さまざまな申し送り事項の伝達が適切に行われるように、ミーティングや連絡ノートなどの体制が整えられている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			定期的(月1回)または、随時に会議を開催し、会議録を作成して、会議の不参加者にも周知している。	
ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			入居者一人ひとりの状況を職員がよく把握し、個人を尊重した言葉かけや対応、周囲の状況に配慮した介助がされている。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			入居者と職員の気持ちの良い穏やかな対応が見られ、安定した良い雰囲気が醸し出されている。	
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			職員が入居者一人ひとりの生活歴や特技などをよく把握し、その人らしい暮らしを支えるケアがされ、入居者に安心感が感じられる。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			入居者一人ひとりの状況やペースに合わせた対応ができています。	
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)		○		希望を表出し自己決定する場として着衣の選択は評価できるが、月1回の「自炊」については日常的な取り組みとは言い難い。	1日の生活の中で食の占める位置づけは大きい。「自炊」の回数を月1回からさらに増やし、入居者の楽しみや自立度を高めることを期待したい。
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			食事の準備や後片付け、居室の片付け、洗濯物たたみ、掃除などの生活場面で、できること、できそうなことを一人ひとり見極め、見守ったり一緒に行ったりする自立支援の環境作りができています。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			身体拘束は行っていない。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			リビングを中心とした生活場面に物心両面での充実した開放感があり、入居者の安定した生活が築かれており、施錠の問題は感じられない。	
介護の基本の実行 8項目中 計			7	1	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43 ○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			家庭的な温かみがあり、使い安い食器が使われている。	
31	44 ○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。	○			法人全体で一括調理しているため栄養バランスもよくできている。健康状態や摂食状況に合わせ、しかも、公平にという配慮が配膳の段階で見事になされている。	食べやすく調理されたものの功罪もあるが、せつかくのカツ丼の肉が硬くて食べにくかった入居者もいたので、さらなる配慮を期待したい。
32	45 ○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。	○			メニュー表に記載し、1日の摂取カロリーのおおよその把握もできて、栄養バランスも考えられている。	
33	47 ○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員も一緒に同じ食事をし、食べ方の混乱や食べこぼしなどへのサポートがさりげなくされている。	
	2) 排泄					
34	48 ○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			個別の排泄パターンを把握し、適切に声かけして誘導を行っており、排泄の自立支援ができています。	
35	50 ○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			周囲への気配り、さりげない誘導など、プライバシーへの配慮ができています。	
	3) 入浴					
36	53 ○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			ほとんど毎日、入居者の希望に合わせて入浴できている。	
	4) 整容					
37	56 ○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			入居者の希望にあわせて理美容院の利用の支援ができています。	

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			食べこぼしに対し、さりげなくサポートしている。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			日中は活動的に過ごし、夜は安眠できるような生活リズムを作っている。ほとんどの入居者が安眠できている。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			入居者自身で金銭管理ができることの大切さを職員が認識しており、一人ひとりの希望や実情に応じた支援がなされている。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			入居者の力量に応じて掃除、配膳、食器洗い、洗濯物たたみなどの役割分担が行われている。文化的なことが好きな方、体を動かすことが好きな方など、入居者の特技や希望を発揮できる場面作りもできている。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			法人系列の提携病院との連携もよく、迅速な対応が可能になっている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			法人系列の医療機関や福祉施設との連携で、心身の状態に応じた適切な対応ができる体制ができている。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			年に1度健康診断を受けている。	

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			居室のほとんどが2階にあることもあり、日常的に階段の昇降をしている入居者も多く、日課としてのラジオ体操や、いきいきらくらく体操、園内の散歩、食事の上げ下ろしなど、身体機能の維持・向上に向けたよい生活リズムが営まれている。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			被害妄想の入居者の対応に苦慮するときもあるが、適切な対応がなされ、入居者の入れ替わりも少なく、安定した生活が営まれている。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			食べ物を噛む力を引き出すメニューもあり、毎食後、入れ歯の手入れもなされ、しっかりと食べられるよう考えられた支援体制ができています。また、法人内に口腔ケアセンターが開所予定であり、健康管理に対しての識見がうかがえる。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			一人ひとりの薬の目的や用法などが一覧表になっており、看護師による服薬管理がなされている。	飲み間違いのないように個別チェックできるような一覧表があるとさらに確実になるのではないかと。
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			緊急時の対応についてはマニュアルがあり、研修も実施され、さらに施設内の看護師との連携も取れている。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			マニュアルが整備され、実行されている。ホーム全体の整理整頓がすばらしく清潔感が感じられる。	
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
3. 入居者の地域での生活の支援							
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)		○		法人敷地内の園庭がすばらしく、天気の良い日には散歩もしているが、地域社会とのつながりを深めるためにも外出の機会が増えることを期待したい。	入居者の生活を法人敷地内で完結してしまうのではなく、外出の機会を増やし、地域での生活支援へと発展することを期待したい。
地域生活 1項目中 計			0	1	0		
4. 入居者と家族との交流支援							
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)		○		2階のロビーも家族との面談場所に使えるようになっており、家族が訪問しやすく、居心地良く過ごせる配慮がある。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
IV 運営体制 1. 事業の統合性							
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。		○		法人代表者とホーム責任者はケアの質の向上に互いに熱意を持ち、連携して取り組んでいる。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。		○		ホームにとって大事な決定やケアの具体的な方法について、職員の意見がよく反映されている。	
2. 職員の確保・育成							
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。		○		夜間や緊急時には法人内の他施設の応援もあるが、宿直体制である。	夜勤体制への移行を検討してほしい。
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。		○		採用時の新人研修のほか、内部研修も多く、外部研修への参加もできている。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)		○		ホーム職員だけでなく、法人内職員との交流もあり、ストレス解消策はできている。	職員はストレスを溜めていない状況ではあっても、より前向きに取り組めるよう、外部と交流できる場を作っていくことが期待される。

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
3. 入居時及び退居時の対応方針							
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			直接ホーム入居にいたる方、法人内の他施設から入居にいたる方など多様な入居経過があるが、それぞれ入居にふさわしいか否かを家族とも十分話し合い決定している。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			病院を含め、法人系列の他の施設との連携で、入居者の心身の状況に応じて、本人や家族と納得の行く支援ができる体制ができています。	
4. 衛生・安全管理							
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			包丁・まな板などの調理器具は、使用後、清潔を保つための手順ができており、衛生管理も行き届いている。	
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬品や刃物など注意が必要な物品については、保管場所が決められ安全に管理されている。	
62	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			これまでの緊急事態などについて、事故の経緯や対応策、改善策が明確に記入された事故報告書が作成されており、再発防止に全職員で前向きに取り組んでいる。	
内部の運営体制 10項目中 計			9	1	0		
5. 情報の開示・提供							
63	118	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			評価調査時に積極的に情報提供をしており、入居者のサービス向上の視点で、訪問調査を前向きに受け止めている。	
6. 相談・苦情への対応							
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			相談・苦情窓口が明示され、家族にも気軽に言ってもらえるような働きかけをしている。	
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

千葉県 やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7. ホームと家族との交流							
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族の訪問時などに気がかりなことや、意見、希望などを気軽に伝えられるよう働きかけたり、家族会も行っている。	
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)	○			入居者の暮らしぶりが、ビデオやホーム便りの発行を通し具体的に伝えられている。	
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			要した経費については出納帳で管理し、家族には証拠書類を添付して定期的に報告している。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
8. ホームと地域との交流							
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			介護教室などの開催は法人全体の中で企画し、運営推進会議も立ち上げている。	
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		○		幼稚園児との交流ができているが、国道に面した大規模法人施設内のホームということもあり、地域住民が気軽に立ち寄るということは少ない。	法人内のホームとして、地域密着型の在りようを模索し、先駆者的役割を果たしてほしい。
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			地域の社会資源との連携はとれている。	
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)		○		法人内での研修の受け入れなどは行っているが、ホーム独自の機能を地域に積極的に開放する場が少ない。	認知症ケアの範となる運営がなされているので、ホームの機能や認知症の関わり方について理解が広まるような取り組みを期待したい。
ホームと地域との交流 4項目中 計			2	2	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
 (2)「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。